

# 『認知症バリアフリー社会実現のための手引き』の作成について

## 1 令和4年度事業として、以下の4業種向けの『手引き』を作成

○薬局・ドラッグストア      ○配食等      ○運動施設      ○図書館

## 2 作業委員会の設置

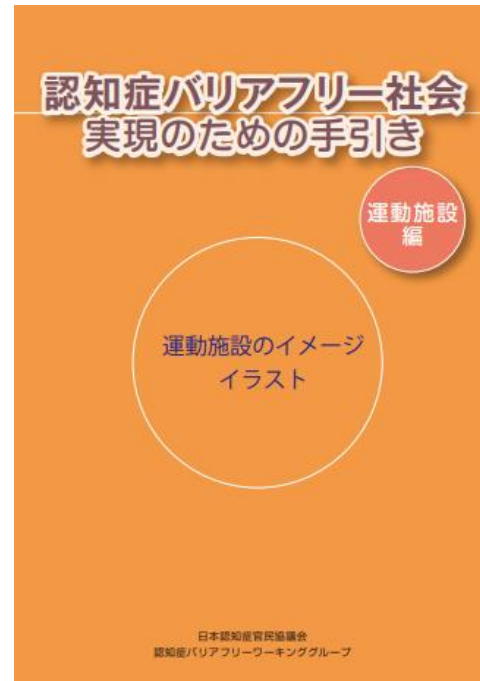
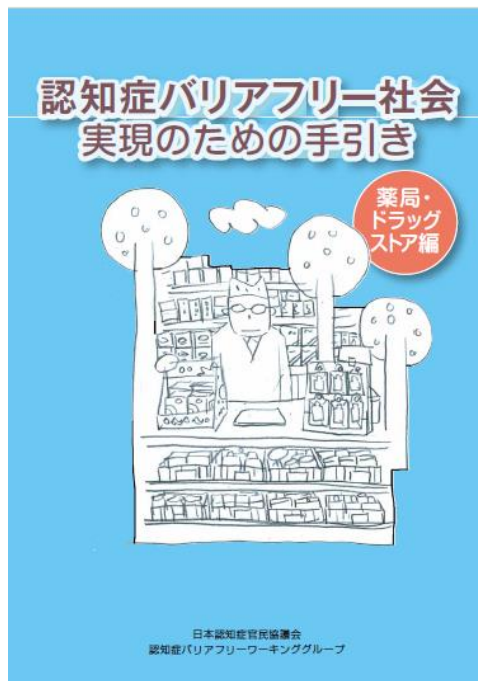
(敬称略)

薬局・ドラッグストア	配食等	運動施設	図書館
<p>日本認知症官民協議会 認知症バリアフリーWG 副座長 石井 信芳                      日本認知症本人ワーキンググループ 代表理事 藤田 和子                      公益社団法人認知症の人と家族の会 代表理事 鈴木 森夫</p>			
<p>公益社団法人日本薬剤師会理事                      山田武志 (株)Y&amp;A 代表取締役)                      一般社団法人日本保険薬局協会                      廣田敬典 (フロンティア和歌山                      日赤前店 薬局長)                      花野郁子 (I&amp;H株式会社阪神調剤                      薬局神緑店 管理薬剤師)                      株式会社アイセイ薬局                      澁澤一樹</p>	<p>日本栄養支援配食事業協議会                      亀本伸彦 (ワタミ株式会社)                      日本生活協同組合連合会                      本木時久                      (株)シニアライフクリエイト                      光本 忠</p>	<p>株式会社ルネサンス                      丸尾 和久</p>	<p>日本図書館協会                      磯部ゆき江                      川崎市立宮前図書館長                      舟田 彰                      専修大学文学部教授                      野口武悟</p>

### 3 『手引きの』構成について（全体20ページ）

1頁	表紙	11頁	（業種ごとでの）認知症バリアフリーに向けた取り組み事例
2頁	刊行の趣旨、活用方法、目次	12頁	
3頁	総論：認知症バリアフリー社会の実現を目指して	13頁	
4頁	<b>【理念編】</b> 認知症バリアフリー社会の実現に向けて I 認知症のバリアとは II 期待される企業・職域団体の役割 ※認知症バリアフリー宣言の紹介 III 接客を通じた実践 ～接し方を考える	14頁	<b>【認知症の理解編】</b> VI 認知症を正しく理解する 1 中核症状と行動・心理症状（BPSD） 2 認知症の種類（原因疾患）による特徴 3 MC1（軽度認知障害） 4 若年性認知症 ～企業・職域団体に求められる対応
5頁		15頁	
6頁		16頁	
7頁		16頁	
8頁	<b>【行動編①】</b> IV（業種ごとでの）具体的な取り組み ○認知症の正しい知識の習得／マニュアルづくり／ 企業理念に位置付ける／地域社会とのつながり 等	17頁	<b>【参考資料】</b> 認知症の人の生活をさせるための参考情報 ○相談窓口 ○関連する制度・事業など
9頁		18頁	
10頁	<b>【行動編②】</b> V（業種ごとでの）認知症バリアフリーに向けた取り組み事例	19頁	奥付
		20頁	裏表紙

※参考資料『認知症バリアフリー社会実現のための手引き』【薬局・ドラッグストア編】をご参照ください。



※表紙デザイン作成中

### 3 『手引きの』作成過程における論点について

- 『手引き』の作成の当初の目的：企業・団体の接遇における場面で、従業員が認知症の人に接するときの道しるべとなる内容を示し、それぞれの企業・団体のマニュアルづくりの端緒となることを期待。
- しかし、“従業員が困った場面”での対応にのみ焦点を当てた事例集的なものを作成するのでは、認知症および認知症の人に対するネガティブな先入観を植え付けることになるので、逆に認知症バリアフリーを阻害することが懸念される。
- したがって、接遇ハウツウのみにこだわることなく、近年は希望をもって活動している認知症の人が増えていることを紹介しつつ、認知症の人に利用しやすい環境づくりや地域連携の必要性を視野に含めて、バリアの軽減を目指すという考え方で取りまとめる方針とした。